

9条連 ニュース

— 世界へ未来へ —
Peace Constitution League
Since 1995.8.15
No.355

2024年9月20日 毎月1回 20日発行 1997年4月14日第3種郵便物認可

主な記事

- 巻頭言・ポスト岸田政権と
真摯に向き合い政権交代を…………… 1
「アメリカのグローバル・パートナー」となった日本国
—対米従属的帝国主義日本の始動— …… 2～3
今こそ転換を！
私たちの政治との関わり方が問われている 4～5
地方報告 …………… 6
映画評・読者のたより・オピニオン …… 7
本の紹介・平和川柳
アーティクルナイン…………… 8

代表 浅井基文／浅野健一／植野妙実子／C・ダグラス・ラミス／常岡せつ子
中山弘正／樋口陽一／藤野美都子／山家悠紀夫

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13

目黒さつきビル303号

TEL 03-5747-9994

FAX 03-5747-9919



ホームページはこちら

<https://9joren.net/> E-mail: 9joren@ams.odn.ne.jp 創刊号1995年1月20日発行 定価100円 年間購読料1,500円(郵送料含む) 郵便振替口座 00160-2-96579「9条連」

岸田政権が発足してから3年、低支持率にあえいだ末に潮時を感じて退く決断をした。安倍・菅政権から岸田政権に及んだこの10年余り、「平和国家」であったはずの日本は変質し、政治や社会は著しく劣化した。何がそうさせたのかといえば、おそらく政治家の「言動」ではないのか。「言」でいえば、政治家が平気で嘘をつくようになったこと、「動」で言えば、国家主義と新自由主義の跋扈ではないのか。

国家主義と新自由主義について、前川喜平さんは憲法の「自由権」を大切にする自由主義と、生存権や教育権などの「社会権」を大切にする社会主義を評価する一方で、日本の政治を悪くしてきたのは国家主義と新自由主義だと非難する（東京新聞「本音のコラム」7月7日）。そして、個人の自由よりも国家の一体性を重視する国家主義が排外主義や歴史改ざん主義に結びつき、公共や共生よりも私利と競争を重視する新自由主義がコモンの破壊と格差を生むことを指摘した。

この間の岸田政権は、自由主義と社会主義を重視する宏池会の理念を放棄し、安倍・菅政権から国家主義と新自由主義の思想を引き継いだ。当初の「新しい資本主義」は、結局彼の寝言で終わってしまった。

「政治家の嘘」で真っ先に思い出すのは、安倍政権による数々の嘘と詭弁と誤魔化しのオンパレードである。IOC総会での「アンダーコントロール」発言、森友事件では「私や妻がかかわっていたら総理大臣も国会議員もやめる」という大嘘、桜を見る会の前夜祭では「ホテルと参加者が直接飲食の契約を結んだ」というありえない嘘、そして実に118回もの虚偽答弁である。

岸田政権での嘘の象徴はマイナカードであろう。取得は任意のはずなのに、医療機関でも薬局でも携帯電話の契約時にもマイナカードが必要であるかのような嘘をついた。裏



石塚 聡（『マスコミ市民』編集局）

金問題やパーティー券のキックバックも酷い話だったし、米兵による沖縄の少女への性犯罪の隠蔽（日・米・警察総ぐるみの犯人隠し）など、安倍政権の時代に勝るとも劣らない嘘と誤魔化しの政治だった。しかも、それをメディアが指弾することもない。

このような政治家の「言」と「動」がもたらしたのは、社会の閉塞感である。嘘と誤魔化しが通用してしまいう出鱈目な世の中を見た国民は、真面目に生きるのが嫌になり、社会は劣化し希望はなくなっていく。報道の自由度は世界第70位になり、ジェンダーギャップ指数は世界第118位の国になってしまった。

でも、今ここで諦めてはならない。政権交代を果たして、自由権（国家からの自由）と社会権（国家による自由）が尊重される世の中をつくるしかない。そのためには、みんなが参政権（国家への自由）を行使することである。

途上国並みの人権水準になってしまったこの国を、世界有数の軍事大国になってしまったこの国を、作り直すしか方法はない。それを真摯に捉え、ポスト岸田政権と向き合っていかなければならない。

いづつかさとし／岩手大学非常勤講師・
「マスコミ市民」編集局